

第3次多古町男女共同参画推進プラン(素案)パブリックコメント

ご意見の要旨及び町の考え方

実施期間:令和7年12月24日～令和8年1月23日

意見数: 1件

No.	ご意見の要旨	町の考え方
1	<p>・プランの背景にある通り、多古町の人口減少および少子高齢化は深刻である。男女共同参画が進むとこういった課題が改善するという根拠は何かあるのか。</p> <p>・ P3,6,20,21,31 「年度ごとに進捗状況を確認し、適宜見直しを加えながら推進」という方針、PDCAサイクルは素晴らしいと思う。しかし、プランの達成度は重要だが、プランが実施されるのは当然の前提のため、「男女共同参画の観点から多古町にどれくらい良いことが起こったか」というKPIを設定しないと「やったからとりあえず満足」となってしまうと思う。人口減少や少子高齢化の改善に関連する何かを指標にするのは難しいか。20、21ページのアンケート調査による数値が統計学的に優位に変動すればよいのか。</p> <p>・ P21 家庭内における男女の役割分担における年齢別のアンケート調査結果から、10代、20代は夫婦同程度の値が高く、町の第3次男女共同参画推進プランは「上の世代の再教育」とも言い換えられるかもしれない。LGBTQを含めた性差別の問題は世界的にも広く周知されており、女性が虐げられている現状は（意識面も含め）当然是正するべきで、プランの実施が上の世代にリーチするかは目標達成度として気にしたほうがよいかもしれない。しかし、意識改革や男女共同参画が改善すると人口減少や少子高齢化が解決するかというのは、「どこに多古町のリソースを割くのか」という観点から考える必要があると思う。</p>	<p>町が発展していくためには、プランにもある通り多様性を尊重し、町民一人ひとりが輝ける社会づくりが重要となり、男女共同参画が進むと社会全体の働き方や暮らし方に変化が見られ、徐々にではありますが改善されていくのではないかと考えています。</p> <p>人口減少および少子高齢化という課題については、これらが複数の要因により複雑に影響を受けていること、また改善までに長期間を要する可能性があることから、これを直接指標として設定するのは現実的に難しいと考えています。こうした理由を踏まえ、多古町では、男女共同参画に関する各施策を通じて、社会全体における平等意識の向上を目指し、『「社会全体として」男女の平等性が「平等になっている」と思う人の割合』を指標として設定しています。この指標は、人口減少や少子高齢化の直接的な改善を測るものではありませんが、男女共同参画による意識改革が進んでいることを判断するための有益な指標であると考えています。</p> <p>上の世代の再教育にフォーカスした施策を展開することは難しいと考えますが、プラン全体の実施がどのような形で上の世代にリーチできるのか、目標達成度を測る際に各世代の意識変化を注視してまいります。また、ご意見いただいたように限られた多古町のリソースをどこに重点的に割り振るべきかという観点についても慎重に考え、施策の検証・改善を進めてまいります。</p>

※記載のページは素案のページです。